

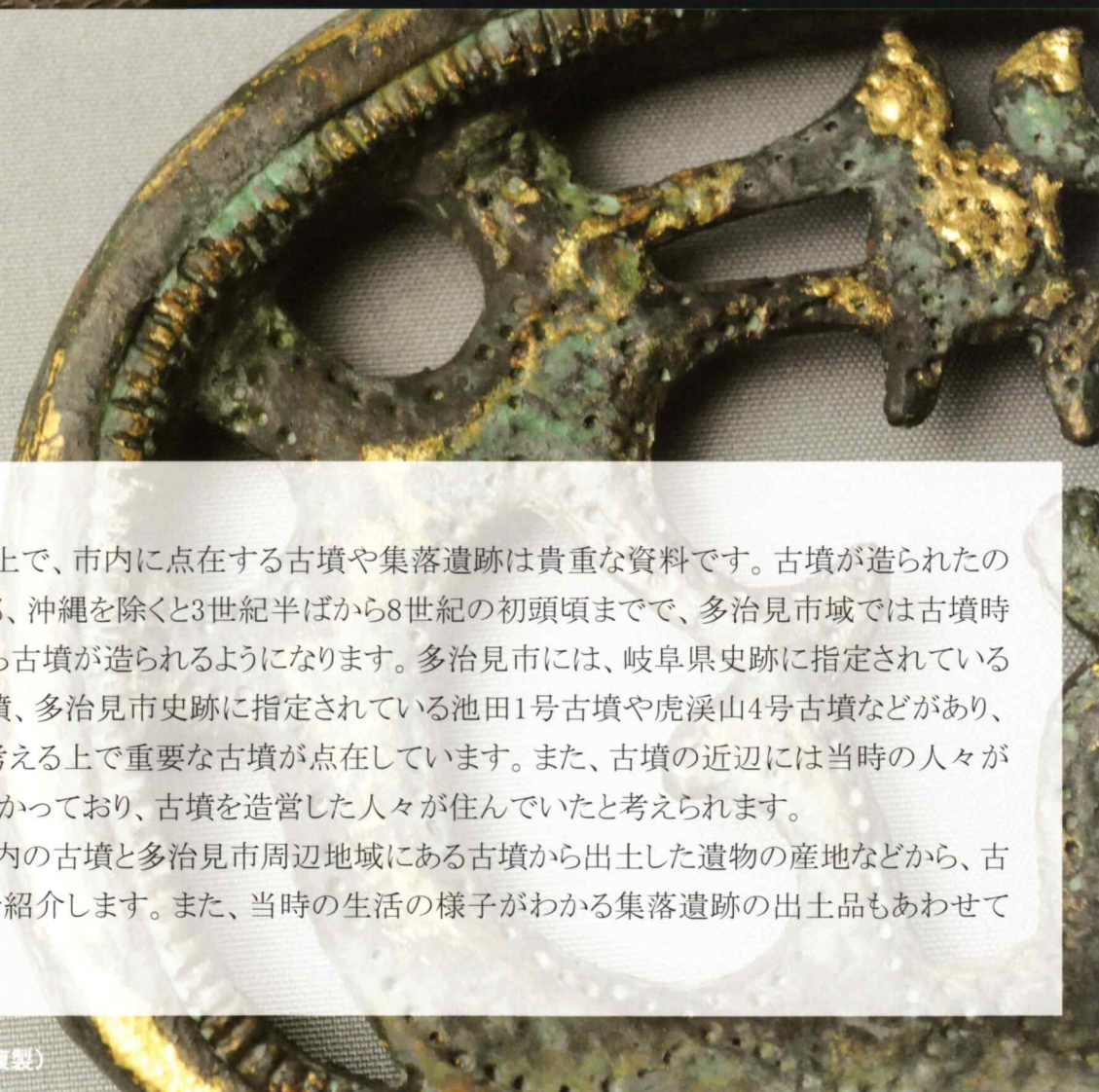


企画展

古代の多治見

—古墳と集落遺跡—

虎溪山一号古墳出土 須恵器・皮袋形瓶



はじめに

古代の多治見市を考える上で、市内に点在する古墳や集落遺跡は貴重な資料です。古墳が造られたのは、北海道や東北地方北部、沖縄を除くと3世紀半ばから8世紀の初頭頃までで、多治見市域では古墳時代後期の6世紀に入ってから古墳が造られるようになります。多治見市には、岐阜県史跡に指定されている虎溪山^{こけいざん}一号古墳や狐塚^{きつねづか}古墳、多治見市史跡に指定されている池田1号古墳や虎溪山4号古墳などがあり、当地域の古墳時代後期を考える上で重要な古墳が点在しています。また、古墳の近辺には当時の人々が生活した集落の遺跡が見つかっており、古墳を造営した人々が住んでいたと考えられます。

本企画展では、多治見市内の古墳と多治見市周辺地域にある古墳から出土した遺物の産地などから、古墳時代における地域交流を紹介します。また、当時の生活の様子がわかる集落遺跡の出土品もあわせて展示しています。

狐塚古墳出土 双龍文環頭柄頭（複製）

1.古墳時代前期の多治見市周辺

古墳時代前期(4世紀頃)、多治見市の北側に位置する可児市・御嵩町の両地域では、前波古墳群(可児市)や伏見古墳群(御嵩町)など、首長級の前方後円墳や前方後方墳が造られました。可児市周辺は畿内のヤマト王権にとって東国を睨む役割を果たしていたという指摘もあり、この頃から重要視されていた地域であったと考えられます。多治見市から東側の土岐川流域においては、首長級の前方後円墳や前方後方墳が造営されず、地方首長が支配する地域が存在していなかったことが考えられます。前波古墳群の中でも最後に造られた長塚古墳造営以後の古墳時代中期(5世紀代)になると、現在の各務原市あたりに可児市周辺も統括する首長級の古墳が造られます。それに伴って可児市周辺では首長級の古墳は造られなくなりますが、御嵩町の天神ヶ森古墳など、首長より下位の地区長クラスの墓と考えられる古墳がわずかに造られています。



▲長塚古墳出土品(可児市所蔵)
※援文鏡・石釧・管玉を展示しています
(写真提供・可児市)

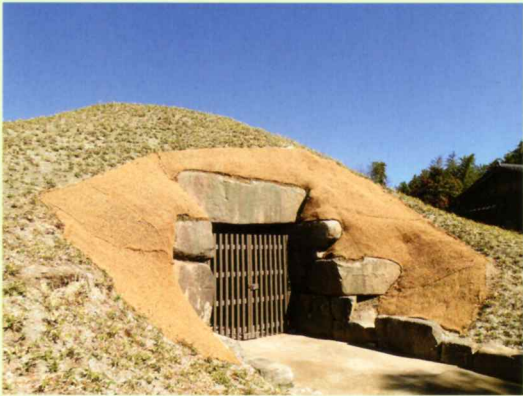
2.古墳時代後期の様子

古墳時代後期(6世紀～)になると、これまで古墳の造営を許されていなかった集落の指導者的立場の人の中にも古墳を造営できる人が増え、多治見市以東の東濃地域においても古墳の造営が盛んに行われるようになります。古代の多治見市域は、ほぼ土岐川をはさんで可児郡と土岐郡に分かれていました。明確に郡(郡の前身の評)の存在が確認されるのは7世紀後半ですが、それ以前から郡の前身となる支配領域があったと考えられています。その支配領域を考える上で、前方後円墳に代わり地域の代表者の墓として造られた大型の方墳は重要な手がかりといえます。

可児市には、7世紀前半に川合次郎兵衛塚1号墳(方墳)が造営され、その規模から後の可児郡域を支配していた首長の墓であると考えられています。この人物によって、多治見市の土岐川北部まで掌握されていたと考えられます。多治見市域では、土岐川以北の地域に古墳の分布が偏っており、古墳時代において、可児郡の勢力の影響が強い地域であったといえます。



▲川合次郎兵衛塚1号墳外観(写真提供・可児市)



▲乙塚古墳外観(写真提供・土岐市美濃陶磁歴史館)

一方土岐郡に当たる地域では、方墳である乙塚古墳(土岐市、7世紀前半)を中心とした勢力によって掌握されていたと考えられます。それ以前の土岐郡域には、古墳時代中期(5世紀代)の荒神塚古墳(瑞浪市、円墳)があり、その頃からこの地を支配する人物がいたことが分かります。しかしながら、土岐郡域に含まれる多治見市域では、古墳が数基しか確認されておらず、可児郡域とは対照的な様相が見えます。

多治見市域では、可児郡に当たる地域に6世紀前半に虎溪山一号古墳(円墳)が、土岐郡に当たる地域に7世紀前半の狐塚古墳(円墳)が造られ、石室の規模や副葬品からみると、それぞれの地域の有力者の古墳であることが分かります。両古墳からは、装飾付大刀(狐塚古墳は双龍文環頭柄頭のみ)が見つかっており、地方掌握を意図した畿内のヤマト王権によって配布されたものと考えられています。こうした副葬品は、直接的にもたらされたのではなく、上述した可児郡や土岐郡の首長によって多治見の有力者へともたらされたと考えられます。



▲多治見市周辺地域の主な後期古墳分布図(国土地理院白地図を改編)

3. 多治見市域と周辺地域との交流

古代の多治見市域は、可児郡域と土岐郡域に分かれていましたが、郡域を跨いだ他地域との交流もあったと考えられます。交流のひとつの目安となるのが、古墳や集落遺跡で出土される須恵器の存在です。

多治見市域の古墳で出土する須恵器の主な産地は尾張の猿投窯です。この猿投窯産須恵器が可児市から東濃にかけての地域に広く見られ、尾張の須恵器の流通域にあったことが窺えます。7世紀頃になると、猿投窯産須恵器の他に、現在の各務原市域周辺にあった美濃須衛窯で焼かれたものと考えられる畿内系の須恵器も出土されるようになり、多治見市内では元三ヶ根7号古墳(可児郡域)から出土しています。このような畿内系の須恵器は、土岐郡域の熊野神社古墳(土岐市)や段2号墳(瑞浪市)などからも見つかり、郡のまとまりを越えた地域間の交流の様相を窺い知ることができます。



▲虎溪山一号古墳出土須恵器(多治見市教育委員会所蔵)

また古墳だけではなく、虎溪山一号古墳の近くにある七ツ塚遺跡や、狐塚古墳の近くにある砂田・総作遺跡、権現遺跡などの集落遺跡からも須恵器が出土しています。その多くは猿投窯産の須恵器ですが、7世紀末から8世紀にかけての集落遺跡が見ついている池田1号古墳近くの喜多町西遺跡(可児郡域)からは、猿投窯産と美濃須衛窯産の須恵器がほぼ同じ量見つかり、日常で用いられる器にも尾張や西濃地域からの影響を見ることができます。一方で、甕等の土師器は在地で作られたと考えられ、他地域との交流の中で入手する器の他に、自らの地域で作出すものもありました。



▲熊野神社古墳出土品(土岐市美濃陶磁歴史館所蔵)
※一部を展示しています(写真提供・土岐市美濃陶磁歴史館)

出土される須恵器以外に、古墳の石室構造からも地域交流を窺うことができます。虎溪山一号古墳や狐塚古墳は畿内の影響を受けたと見られる片袖式の横穴式石室を有しています。片袖式の横穴式石室は、御嵩町の中切古墳(可児郡域)や恵那市(土岐郡域)の千田17号墳等にもみられ、可児・土岐両郡域にかけて広く用いられています。また、虎溪山一号古墳に関しては、埋葬者が安置される玄室の入り口に段があり、堅穴系横口式石室の特徴を持つことも指摘されています。この造りは、6世紀に西三河の影響を受けた造りであると考えられており、可児市の坂戸上野古墳などにも見られます。また、非常に浅い左片袖式石室である点、長大な玄室である点、玄室入り口に段がある点などから、ほぼ同時期に築造された熊野神社古墳(土岐市)との共通点も指摘され、周辺地域間における石室を通した交流も窺えます。



▲虎溪山一号古墳石室

このように古代の多治見市域は、可児郡や土岐郡の他に、尾張や三河、畿内などから広く影響を受けながら存在していたと考えられます。

池田1号古墳と元三ヶ根7号古墳



▲池田1号古墳外観

池田1号古墳(池田町)と元三ヶ根7号古墳(明和町)からは、多治見市域(可児郡域)内の交流を窺うことができます。池田1号古墳は、6世紀末から7世紀後半にかけて使用された古墳で、両袖式の横穴式石室として築造されましたが、7世紀前半に堅穴系横口式石室に類似した構造に改変された珍しい古墳です。元三ヶ根7号古墳は、この古墳と同時期に造られ、両袖式の横穴式石室を有することから、同じ技術者集団によって造られたと考えられます。

4.可児・土岐郡域の馬具

日本列島に馬が本格的に導入されたのは、古墳時代中期(5世紀代)であり、朝鮮半島から運ばれてきたと考えられています。馬の導入に伴い、日本各地で古墳の副葬品として馬具を埋葬するようになります。可児市を含む東濃地域からも6〜7世紀頃の馬具が出土しています。虎溪山一号古墳においては、金銅装のf字形鏡板轡が出土しており、威信財として用いられたと考えられます。この轡は装飾付大刀と同様に、畿内のヤマト王権によって配られたと考えられ、中央政権の影響が窺えます。馬具の分布状況を見ると、後の東山道の原形とされ、5世紀の中葉に成立したとされる古東山道沿いに多く分布することが分かり、交通の要衝を管理していた有力者に配られたとされています。虎溪山一号古墳がある地域も、庄内川流域で志段味地区(愛知県名古屋市の)の上流に位置し、志段味地区と東濃地区を結ぶ交通の要衝として重視されていたと考えられています。



▲虎溪山一号古墳出土f字形鏡板轡
(多治見市教育委員会所蔵)

5. 見に行ける！多治見の古墳

多治見市内には、虎溪山一号古墳と狐塚古墳のほか、墳丘が復元された池田1号古墳など、発掘調査の後に保存されたり、学校や公園等に移築された古墳が点在しています。下表にある古墳は気軽に見に行くことができるので、ぜひ古代の多治見を感じてください。

	古墳名	場所	時代	特徴	備考
1	虎溪山一号古墳	弁天町4丁目 (虎溪公園より東へ130m)	6世紀	二段築成の円墳。規模・副葬品ともに多治見では別格の存在。	県指定文化財
2	元三ヶ根1・3・5号古墳	明和町2丁目 (国道248号線「多治見西高校前」信号を北へ300m)	6世紀中頃〜7世紀	1号古墳が最も古く、古墳群の他の古墳より高い位置に立地している。	明和町にあったものを移築・保存(南から3・1・5号)
3	元三ヶ根7号古墳	高田町10丁目17-9 共栄公園内	6世紀末〜7世紀前半	元三ヶ根古墳群の中で最も大型の古墳。	明和町にあったものを移築・保存
4	池田1号古墳	池田町10丁目61-1 (喜多緑地内)	6世紀末〜7世紀後半	石室の改変がみられる東海地方唯一の古墳。	市指定文化財 復元
5	狐塚古墳	笠原町2800	7世紀前半	岐阜県下では珍しい双龍文環頭柄頭が出土した古墳。	県指定文化財



▲元三ヶ根3号古墳



▲元三ヶ根7号古墳

主要参考文献
多治見市 1980『多治見市史』通史編上
澤村雄一郎 1996『愛知県・岐阜県内古墳出土馬具の研究』
長瀬治義 2002「方墳の領域〜律令前夜の美濃と飛騨〜」『美濃の考古学』5号
藤井康隆・瀬川貴文編 2005『横穴式石室からみた濃尾の地域社会』
可児市 2005『可児市史』第一巻 通史編 考古・文化財
右島和夫・千賀久 2011『列島の考古学 古墳時代』

謝辞(敬称略)
春日美海、栗谷本真、砂田晋司、塚本恵伍、長江真和、長瀬治義、西部良治、恵那市教育委員会、可児郷土歴史館、川合考古資料館、土岐市美濃陶磁歴史館、中山道みたけ館、瑞浪市陶磁資料館

多治見市文化財保護センター企画展パンフレット

「古代の多治見ー古墳と集落遺跡ー」

展示期間・場所: 令和3年7月5日(月)〜12月24日(金)
多治見市文化財保護センター展示室

発行: 多治見市教育委員会・文化財保護センター
〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-26
TEL(0572)25-8633 FAX(0572)24-5033
URL <https://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

発行部数: 600部(印刷費用71,940円)(税込み)